

専徳寺報

第444号

平成31年3月1日発行
浄土真宗本願寺派
専徳寺

〒740-0044 岩国市通津2764
☎0827-38-1124 FAX38-1000

<http://sentokuji-iwakuni.net/>

専徳寺

検索

春季讚仏会法要

御案内

平成最後の法座となりました。どなた様もどうぞご縁に遇われてください。

日程

3月15日(金)	昼 1時半～3時半
	夜 7時半～9時
16日(土)	昼 1時半～3時半

講師

本願寺布教使

服部 法樹師 (呉市)

●参拝セット(念珠・聖典・式章・聴聞カード)をご用意ください。

●お世話人地区は保津地区です。



弘中聰明師略歴と事跡

- 大正 5 年 10 月 誕生 専徳寺住職義啓師の二男。
- 昭和 24 年 9 月 得度・教師。
- 昭和 26 年 9 月 布教研究所(現 伝道院第一回生)本願寺布教使拝命。
- 昭和 28 年 4 月 専徳寺副住職拝命。
- 昭和 29 年 5 月 鐘樓の再建。
- 昭和 31 年 4 月 専徳寺第12世住職拝命。
- 昭和 32 年 1 月 『専徳寺報』を創刊。(現在443号継続中)
- 昭和 32 年 4 月 日曜学校開設。
- 昭和 40 年 4 月 日照幼稚園開設し園長就任。
- 昭和 41 年 10 月 専徳寺本堂屋根修復事業。
- 昭和 45 年 4 月 学校法人日照学園を設立し理事長就任。
- 昭和 48 年 10 月 専徳寺庫裏新築。
- 昭和 55 年 2 月 専徳寺住職退任。
- 昭和 61 年 3 月 日照幼稚園園舎新築。
- 昭和 62 年 10 月 『日照山専徳寺の歴史と事跡』を執筆・出版(1,000部)。
- 平成 7 年 3 月 学校法人日照学園理事長&日照幼稚園園長退任。



得度を終えて(32歳)於：西本願寺

◆前々住職往生(一月二十一日)

当山第十二世住職、法名月光院釋聰明(俗名弘中聰明)、去る一月二十一日、浄土往生の素懐を遂げました。享年一〇四歳でした。

通夜は同月二十三日、密葬儀は二十四日に近親者にて執り行いました。また本葬(門徒葬)を二十七日午後十四時より執り行いました。

生前のご厚誼に深謝し、謹んでお知らせ申し上げます。

※密葬（二月二十四日）の様子



出棺



境内



外陣荘厳

弔辞

専徳寺門徒葬 葬儀委員長

大崎 三雄

本日ここに 第十二世専徳寺住職・日照学園前理事長 弘中聡明様の専徳寺門徒葬・日照学園葬に当たり 謹んでお別れの言葉を申し上げます

ご家族 ご親族のご心中を察しますとき 悲しみはいかばかりかと胸のふさがる思いで一杯でございます

ご院家様は 昭和31年 40歳で専徳寺第十二世を継職下さって以来 退任された昭和55年以降も 60年以上の長きにわたって寺門の繁栄 ご法義繁昌のために邁進して下さいました

まさしく われわれ門徒の心にお念仏の灯をかかげてくださったご生涯でした 貞享3年開基以来300年を経て 老朽化した専徳寺の伽藍諸堂の改修事業・新築事業を果たし遂げてくださいました 昭和29年5月 まだ副住職時代でした が梵鐘を再鑄し鐘楼再建され 昭和41年には本堂の屋根の全面改修をやり遂げ 昭和48年には近隣に先駆けて門徒会館様式の庫裏を新築されました

そうした多忙の中にも 未来を背負う

子供たちのために 日照学園を設立し日照幼稚園園長として 昭和61年には新園舎を建設され「念仏の声を子や孫へ」と勤め励んで下さいました

さらには 文書伝道にも尽くされ山口教区内にさきかけて発刊された専徳寺報は現在62年目443号にまで到達しています

これらの業績は現在 孫の第14世満雄住職 ご長男 につしよ認定ごども園 弘中英正園長へと継承されています

昭和62年に著わされた『専徳寺の歴史と事跡』は 歴史ある寺院を受け継ぐ門徒の誇りを涵養する名著でした

宗祖親鸞聖人は「前に生まれんものは後を導き 後に生まれんひとは先を訪へ 連続無窮にして 願わくは休止せざらしめんと欲す 無辺の生死海をつくさんがためのゆえなり」と示されましたが

われわれ門徒一同は 第十二世住職のお心を身に掛け ますますご法義繁昌 諸堂の護持をはかることを決意いたし また遇う世界 を聞きえたよろこびを胸にしばらくのお別れを申し上げます

なもあみだぶつ

弔 辞

専徳寺仏教婦人会

会長 土井智恵子

前々住様に専徳寺仏教婦人会を代表して、謹んでお別れを申し上げます。

前々住様は、専徳寺仏婦の生みの親であり、育ての親でした。

もともと通津仏教婦人会であった本会を、専徳寺仏婦として自立させ、さらに保津地区・青木地区・黒磯地区・藤生地区へも会員を広げ、ついには全門徒婦人による専徳寺仏婦に成長させて下さいました。

その上、仏教青年会を結成し、日曜学校を開設し、そして学校法人の幼稚園までも創設する、まさしく専徳寺の教化活動を盤石にしてくださいました。ご生涯でした。

ユーモアあふれるご法話は門徒の楽しみでもありましたが、最近はなかなか前々住さまのご法話のご縁にはお会いできませんでした。

けれども、90歳を越えてもなお、本堂で門徒の先頭に立つてお聴聞されるその姿こそ、なにより尊いご法話だと会員一同味わっておりました。

今はもう、その朗々たる読経のご縁にもお会いできませんが、常日頃おっしゃられたように、別れは一旦、また遇うお浄土の世界を心に期してお別れを申し上げます。お礼を申し上げます。

なもあみだぶつ



布教研究所 (前から2列目、右から6番目)



通津戦没者追悼法要 (右から2番目)



著書『日照山専徳寺の歴史と事跡』



90歳 (新発意を抱いて)



日照幼稚園運動会



やさしい真宗の話(第三十回)

弘中聰明 (専徳寺前々住職)

お葬式に行つて、

「日頃から仏法を聞いていましたので、臨終の時は、心残りなく安心してゆきました。」

という遺族の言葉を聞いた時程うれいことはございません。身も心も軽く野辺の送りができます。

それに反して、たとえ多くの花輪にうずもれ、各界名士の入れかわり焼香せられるような豪華な葬式であっても、

「あれほど金をかけて養生しましたが、とうとうダメでした。」

という遺族の声を聞くと、身も心も重苦しくなります。そうしてみると、死んだ後、盛大な葬式をしてもらうよりも、生きていうちに、ご法話を一度でも聞いて、よるこんで日夜を送り、目を閉じる時に、心残りなく安心したほうが、余程の得であると感じます。

蓮如上人は、『**仏法は元気な時にたしなめ。目もうすくなり、耳も遠くなり、ものみな忘れる頃になつて仏法に近づいても、もはや間にあわぬぞ**』ときびしくさとされています。

ところが、いつの世でも人間は生活に追いまくられています。今の時代は特にそれが激しいようです。老いも若きも、金を得ること、地位を得ること、名誉を得ることに日夜苦勞しています。それはそれなりに意味のあることではございませんが、

「仏法を聞いていたので、心残りなく安心してゆきました。」という言葉に出あつた時、何かはつとふりかえさせられるものがあります。

人生最後の儀礼である葬式も、こうして心して味わえば、私たちに人の世を生きる道のほんとうのすがたを教えてください。

(おわり)
『専徳寺報』第44号(昭和38年3月)より

「やさしい真宗の話」は昭和32年から昭和42年まで、全55回、寺報に掲載されました。専徳寺のホームページにて読むことができます(メニュー「法話」から「過去の法話」をクリックし、「2月上旬」の法話末尾にあります)。詳しくはおたずねください。

専徳寺納骨堂受付中

寺内だより

み仏にいだかれて [葬儀勤修]

- 12月22日御往生 御庄 米本 勢子様(86) 喪主 米本 敏男様
- 12月26日御往生 山田 村岡 旭様(100) 喪主 村岡 隆様
- 12月31日御往生 保津 赤崎 智子様(86) 喪主 赤崎 謙一様
- 12月31日御往生 大坂 池田ハルミ様(80) 喪主 池田 浩様
- 1月13日御往生 泉迫 田中ミツ子様(98) 喪主 田中 稔様
- 1月18日御往生 郷 白田 信代様(92) 喪主 白田 尚則様
- 2月2日御往生 藤生 蛭子千恵子様(101) 喪主 蛭子 義人様
- 2月2日御往生 海土路 上野ハル子様(98) 喪主 上野 和平様
- 2月5日御往生 本呂尾 藤中 敏夫様(61) 喪主 藤中 芳子様
- 2月11日御往生 浪の浦 沖原 葦伸様(69) 喪主 沖原 健二様
- 2月12日御往生 平田 村井エイ子様(83) 喪主 小口 忠史様
- 2月18日御往生 錦見 松江 行雄様(87) 喪主 松江小夜子様

ご恩を偲びました

[法事勤修](12月22日〜2月26日)

〔通津〕米村良典13、河本政則1・25、大倉昇100、村中俊朗17・100、中田弘子13・50、広本茂17、広本サト子13、谷川増実1、深井晃100、清水宏1、時藤眞津男25、浅林操13・50、浅井佐50・100、土井浩二1、松重勝己25、和泉清子1、木村多美恵3、木村タマエ100・100、〔保津〕岡崎福美25、上田浩之1・25、賀屋幸子250、赤崎弘文7・100・200、赤崎稜25・50、〔青木〕松村光昭3、土井良貴3・50、上田修一33、高重八重子13・33、森上芳江7、〔黒磯〕藤木裕史7、宮本義明100、尾下忠道17、藤尾哲夫33、河村アサ子50、〔藤生〕土井利雄1、25・100、宗正昭雄50、野原靖史7・50、〔六呂師〕篠田ツタエ100、〔由宇〕藏中和恵3、伊ヶ崎正良25、前田令子1、〔市内〕明石菊枝17、末田玲子1、松江小夜子1、松尾末喜17、坂田洋次3、益富弘人1、〔甘日市〕川本安則25・33、〔倉敷〕土井フサ子1、〔埼玉〕友田教正7、村中敏則3、〔東京〕野原千秋1

法要余香(報恩講法要 1月17〜19日)

平成最後の報恩講。多くの方々のご尽力により無事勤修することができました。

【講師】溪宏道師、前住職【参詣者】17日:105名、18日(昼座)103名、(夜座)38名、19日:100名。【お供え(みかん)】白田憲光様、小方茂生様

なお二日目の大速夜に、初めて座談会を行いました。「浄土真宗の信心を、浄土真宗以外の人に、一言でどう伝えたらよいでしょうか?」「境内の壁の三本線にはどういう意味があるのですか?」、また「親鸞聖人様は法然上人様の弟子なので、浄土宗の方が上という人がおられるのですが、教えてください。」等、種々の質問が出ました。

あと「元旦会に孫の初参式をしてもいいでしょうか?」喜んでお受けします。お電話ください。